

第200回 番組審議会

1. 日 時 平成23年3月8日 (火) 16:30～
2. 場 所 ホテルロイヤル盛岡 3階 ロイヤルホール
3. 委 員 委員総数 13名
出席委員数 10名 (欠席委員数 3名)

○ 出席委員 (敬称略)

中村 慶久 (委員長)

三浦 宏 (副委員長)

—以下50音順—

斎藤 純

斎藤 雅博

東海林 千秋

菅原 正二

中原 祥皓

藤原 保雄

村上 幸子

八木橋 伸之

○ 会社側出席者 (7名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)

小原 忍 (専務取締役)

藤澤 利憲 (常務取締役)

前田 秀男 (取締役編成技術局長)

藤原 銀司 (取締役営業局長)

田山 裕明 (編成技術局次長兼編成部長)

松舘 守 (めんこいエンタープライズ 制作部 部長)

○ 事務局 村田 重昭

4. 議 題

5. 議 事 概 要

今回は1月2日に放送した「山・海・漬 いわて珍地名FILE わが町再認識」について審議しました。出席した委員からは「地名には歴史があることを知り、非常に面白かった」「同じ漢字でも読み方が違うなど勉強になった」「県南だけでなく他の地域も取り上げてシリーズでやってほしい」など番組を評価する意見がありました。

また一方で「地図を出してどこの場所なのかもっと分かりやすくしてほしい」「地名の意味についてもう少し詳しく掘り下げてほしかった」などの意見がありました。

6. 議事

○事務局

それでは、ただいまより第200回番組審議会を開催致します。

本日ご欠席の委員は、久慈委員・役重委員・吉田委員の3人です。

ここで委員の皆様にご報告があります。平成11年9月より11年6ヵ月の長きに渡り、番組審議委員をお務めいただきました中原委員が、本日の審議会をもって退任されることになりました。そこで、中原委員より委員の皆様にご挨拶をお願いいたします。

○中原委員

今日、ホテルの看板を見ましたら200回記念という事でした。200回までもと思ったのですが、体力、知力がとても持たないということで、社長の許可を得まして、本日をもって、めでたく退任させていただく事になりました、非常にありがとうございました。

私はこの会に年に10回、月1回出席し、多種多彩な方々とお会いできる事を何よりも楽しみにしてきました。私は活字育ちなもので、テレビならでは面白さと難しさをつくづく思い知らされた上で、さらに何かをしゃべろという審議会であります。私はいつも議事録を家に帰ってから見るのですが、難しいわりに結構まともな事もしゃべっていると思っはいたのですが、これもひとえに番組審議会の事務局の脚色ではないかと思っております。(笑)

11年と6ヶ月務めたわけですが、今回が200回目、ちょうど区切りという事で、皆様には本当にお世話になりました。今日は200回記念のパーティーがあるという事でしたので、

喜んで参上しました。これからの、皆さんとめんこいテレビの更なるお元気と、審議委員の皆様のお元気を願って挨拶にさせていただきたいと思います。長いありがとうございました。

○事務局

中原委員、ありがとうございました。

今回の議題は、2月5日に放送されました「山海漬 いわて珍地名FILE わが町再認識」です。本日は編成部長の田山とめんこいエンタープライズ制作部長の松舘が出席しております。

それでは、中村委員長よろしく願いいたします。

○中村委員長

中原委員におかれましては、本当に長い間ありがとうございました。大先輩であらせられますし、活字のご出身ということで、貴重なご意見をいつも拝聴させていただいております。中原委員には、また別な機会でお会いできればと思っております。

それでは議事に入ります。田山さんと松舘さんから、今回の番組の背景や説明をお願いします。

○田山編成部長

議題の「山・海・漬」は、めんこいテレビを代表する長寿番組で1996年の10月にスタートしました。放送回数は番組審議会の3倍以上で、今回の「岩手珍地名FILE」で612回を数えます。今年度、これまでの視聴率は最高17.9%、最低7.8%、今年度平均で11.8%となっています。前の年度よりも若干低めの視聴率ではありますが、キー局の作った番組を裏に回して平均2桁の視聴率を維持している、めんこいテレビの看板番組という位置づけになっています。

毎回、リポーターや担当ディレクターが変わりますので、その回によっては多少番組の乗りが違って見える時もありますが、岩手の「人」「事」「物」を遊び心をもって紹介するとう基本的なコンセプト、テイストは変えておりません。今後も新しい発見をしながら、視聴者に親しまれる番組として続けていきたいと考えています。

今回、審議いただく番組では、今年度から採用した新人の瀬梨亜さんというリポーターを起用しています。制作は中堅の紅屋ディレクターが担当しています。今回はさらに岩手の地

名博士という立場で宍戸 敦 さんに出演いただきました。通常、リポーター 一人が現場に行っているという紹介するといった演出が多いのですが、今回はあえて宍戸さんにセリフを言ってもらったり、リポーターとの動きのあるやり取りなどをお願いして、分かりやすさと納得性、そして親しみ易さをアップさせる試みをしています。今回は、特にこの種の演出やリポーターに関するご意見・ご感想などをいただき、新しい年度の山海漬に生かしていきたいと思っています。演出面については制作部長の松館から説明させていただきます。

○松館部長

この番組を実際に制作したディレクターの紅屋が出席するべきでしたが、どうしても動かせない特番のロケがあり、代わりに私からお話させていただきます。

今回は地名をテーマにしましたが、実は2年前にも私が担当して、地名の不思議というような企画の番組を制作しました。その時は、紫波町の「郡山駅」、雫石の「極楽野」、遠野の「踊鹿」(おどろか)という地名を紹介しました。とても評判が良く、反響が大きかったので、今回もまた同じような地名というテーマで企画しました。

当初の企画段階で、面白い読み方とか漢字の地名がいいのではないかと調べたところ、「猫屋敷」「御免」という地名や、「頭無」(かしらなし)などの面白い地名が県南にあることが分かり、県南にスポットを当てようと考えました。実際に地名をもとに現場を訪れてみたのですが、結局それほど面白い裏話もなく、冬のため一面雪景色ということで、あまり面白く広げられないという判断になりました。

どなたかに助けていただきたいという事でリサーチしたところ、地名を30年以上研究しているという宍戸 敦 さんに辿り着きました。宍戸さんは水沢市胆沢区の文化財研究員として郷土芸能について調査や研究をなさっている方です。「岩手県地名大辞典」とか「東北の地名 岩手」などという書籍を執筆されています。宍戸さんにはご出演はもちろんですが、地名の由来など情報に誤りがないように、監修もお願いしました。

番組の内容については、地名研究などにあまり縁のない視聴者の方が「へえ～」とか「ふ～ん」とか「なるほど」と思っただけの事を目標に、その地名に興味を持つきっかけになるよう制作しました。紹介する地名につきましても地形篇、伝説篇、信仰篇の3分野に分けて由来も比較的分かりやすいものを選び、番組リポーターと一緒に考え、由来を探るという流れの番組にしています。

地域の方のお話を通して、その地域の雰囲気や温かさなども伝えられたらと思って制作し

ました。地名には、さまざまな歴史的な背景といったかなり重要で触れたかった部分もありましたが、今回はその深い部分まで紹介することはできませんでした。

今回の放送がきっかけとなり、視聴者の皆さんが自分の住んでいる所の地名や、岩手の地名に興味を持つようになれば嬉しいと思い制作しました。

○中村委員長

それでは委員の皆様からご意見、ご感想を伺っていきたいと思います。

藤原委員からお願いします。

○藤原委員

非常に勉強になりました。「山・海・漬」でメモを取りながら見たというのは初めてです。「西風」(ならい)とか読めないです。「大歩」(おおあご)「小歩」(こあご)「愛宕」(あたご)は読めましたが「愛宕」(おだき)は分かりませんでした。いろいろと本当に面白かったです。

番組の構成も地形篇と伝説篇、信仰篇という3つに分けていましたが、特に伝説篇が面白かったです。お姫様がいて「化粧坂」とか、「鶯淵」で身を投げたとか、あの辺りは本当に面白かったです。

2つ思いました。かつて岩手のキャッチフレーズで「詩情豊かな岩手路」というのがあったのですが、岩手は本当に詩情が溢れている所だという事を改めて思いました。岩手人ですが、知らないという事が恥ずかしくなってきました。盛岡生まれですが、盛岡の事もよく分かっていないので、斎藤純委員が発行されている「街 もりおか」は毎回楽しみにしています。常に新しい発見があります。もっともっと地元のことを知らなくてはいけないと、この年になって改めて思いました。

本当に楽しく学べた番組で、出演した二人の掛け合いも非常に遊び心があって良かったと思います。女性のレポーターもハツラツとしていて、楽しさが伝わってきました。私にとっては、とても教育テレビ的な番組でした。

○中村委員長

斎藤純委員お願いします。

○斎藤純委員

本当に何も知らなくて「そうだったのか」と驚きながら拝見しました。伝説篇の所で「松館」という地名が出てきましたので、松館部長は関係あるのかと思いながら見ていました。

司馬遼太郎の本を読んでいた時に見つけたことですが、信州に「平」（たいら）という地名が多いが、それは平地のことではなくて台地、ちょっと高台の平らな所を「平」と付けると書いてありました。そんな事も思い出しながら見ました。こういう地名には歴史があることを再認識させられました。

めんこいテレビの住所も今度、地名変更で変わりましたが、地名変更というのは歴史をもっている場所だけに慎重にやらなければいけないと思います。本宮1丁目から5丁目でのいいのかなという感じもしました。

番組自体は穴戸さんという地名博士が嬉々としてやっていらして、それが非常にいい雰囲気だったと思います。

ここには博識の方がそろっているのでご存知の方がいたら教えてほしいのですが、愛宕神社はどこも高い所にあります。本宮の愛宕神社もちょっと高い所にありますし、東京もNHKがあった所は愛宕山というくらい、ちょっと高い所。沼宮内の愛宕神社も、ものすごい石段を登っていかねばならない高い所にあります。京都も愛宕神社はちょっと高い所にあります。どうしてなのか知っている人がいれば教えて下さい。インターネットでパッと見た感じでは、そういうことを指摘しているものはありませんでした。

それから、この手の番組の時は必ず番組審議会で指摘される話ですが、簡単でいいですが地図を出して下さいという事です。まして今、合併で奥州市になってしまって「江刺区」と出れば江刺だと分かりますが、それでも県南の事になると広いですので、どの辺のことなのか分からない感じがしました。いつも地図を簡単でいいから出してほしいという声があるにも関わらず出さないのは、何か意図的な事があるのかという疑問も感じました。

勉強になりました。

○中村委員長

菅原委員お願いします。

○菅原委員

地名はおろそかに出来ないものであります、歴史ですから。今回、めんこいテレビの本社の住所が変わったのも、如何なものかと思えます。変えない方がいいということは番組でよ

く伝えていました。斜面だとか平な高い所、低い所とか、あれはかなりの事を表しているわけで、なるべくならば地名は変えない方がいいのではないかと思います。

僕もわりと地名は好きです。昔、演奏旅行で四国、高知へ行くと、「大歩危」（おおぼけ）「小歩危」（こぼけ）そういう所がありました。珍地名は至る所におびただしい程あるから、欲を言ったらキリがないので、今回はこれでいいと思います。

地名は一関にも「おにちがえ」鬼の違えと書く地名があります。もっと細かく言うと番地です。何々町とか、二日町、六日町とか、みな何か訳があるらしいです。

今回はほんの触りですけど、とても大事な事だと思います。続編はもっと細かくして、また続けてやったらどうでしょうか？

大変面白かったと思います。

○中村委員長

八木橋委員お願いします。

○八木橋委員

地名は大変好きなので、非常に楽しんで見る事が出来て大変良かったと思います。一般的に興味を持たせるという意図があったという事だったので、そういう意味では成功していると思います。

せっかくの番組が雪一色で若干盛り上げる要素に欠ける、という話しが制作面から出てきて、演出をいろいろと考えたという事でした。この地名をテーマにした内容で、30分番組ということなので、しょうがないのかもしれないけれども、やっぱり地名がいつ頃出来たのかという事と、もうひとつその前にアイヌ語地名時代はどうだったのかとか、昔こうだったけれど江戸時代にこう変わりましたとか、そういった話が欲しかった。例えば正法寺のお寺も元々あれは真言宗のお寺だけど、禅宗の力が強くなって禅宗に変わったとか、故事来歴をチラッと行ってもらえると良かった。

「たいら」と「ひら」の問題などは面白かったけれども、もうひとつ「たい」という読み方があります。八幡平と書いて「やまたい」と読ませて、某小説家は邪馬台国はあそこにあったという説があるくらいです。正しいかどうかはわからないけど。そんな人がいるくらいだから「たい」とか「ひら」とか「たいら」とか、読み方で全く地名ひとつ変わってしまいます。八幡平が邪馬台国だと面白い。あそこに行って金でも掘りたくなる。地名ひとつで見方

がコロッと変わってしまうのが非常に面白い。

勉強になったのは「おだき」という読み方が、本当かどうかは分からないけど、県庁の役人が「こう読めと言った」という内容は、もし本当ならばすごい発見ですね。非常に勉強になりました。そういう意味で非常に楽しかったと思います。

ぜひ、そういう意味でも続けてやっていただければと思います。

○中村委員長

斎藤雅博委員お願いします。

○斎藤雅博委員

これまで話した方と私も全く同感です。珍地名ということでしたが、同じ県内に住んでいながら、全然知らない地名がたくさんあり、非常に驚きでした。

タイトルが「わが町再認識」という事ですが、本当に再認識させられました。番組審議会の立場から離れて、私は銀行員ですので、地域密着を標榜する地域金融機関からしますと地域情報はきわめて重要な情報です。こうした情報を持っているか、持っていないかでけっこう営業推進に差が出てきます。地元を知るといのが我々の職業の原点であり、漬け刃かもしれませんが、地方局の制作したこういった番組は、貴重な情報源で参考になります。

番組の中で面白かったのは、やはり伝説篇のところ、非常に興味深く見る事ができました。「歌読」（うたよみ）、「歌書」（うたがき）という地名にまつわるロマンチックな話とか、安倍貞任にまつわる所は非常に興味深く見ました。「一首坂」（いっしゅざか）、「大歩」（おおあご）「小歩」（こあご）という地名は、前九年の役の当時に付けられたと思いますが、前九年の役が胆沢城付近であったのかと想像できるような内容で、歴史を感じることができて、非常に良かったと思います。今回、県南篇ということで地域を限定したわけですが、他にも前九年の役や後三年の役にまつわる珍地名がありそうな気がしました。出来ればそういうものも紹介してほしかったと思います。

信仰篇で紹介された「愛宕」（おだき）は地名でしたので読み方は知っていましたが、なぜなのか初めて知って驚きでありました。

登場した宍戸さんの説明も、非常に良かったと思います。変に説明っぽくなくて、世梨亜さんとのやりとりも面白かったです。寒い中の撮影で、お二人は本当にお疲れさまでした。

「山・海・漬」という番組は、時間帯も土曜日の18時半からという事で、あまり肩の凝ら

ない番組です。いろいろな地域に根ざしたテーマを取り上げていて、非常に素晴らしいと思いますので、これからも是非続けていただきたいと思います。

○中村委員長

中原委員お願いします。

○中原委員

ちょっとお聞きしたいですけど、これが新しい年度のスタートですか？（いえ、今年度の番組です。）そうですか。このテーマは続けていかれるのですか？（続編はあると思います。）

僕は県南篇を見て、次はどのような区分けをするのかと第一に思いました。県北篇は当然として、その後どうなるのかと思ったのですが、天気予想などで沿岸北部、沿岸南部とあります。そういう風に分けてやっていくのかなあと。岩手は広いですから県南、県北で済ませるというのも安易だと思って、勝手にやるなら沿岸の方も続けてほしい。結構あそこ辺りも言葉が違います。北と南も違うし内陸と沿岸も違います。言葉が違うので当然、地名、人名、その他もいろいろ出てくるのではないかと思います。もし続けるとするならば区分けを一ひねりして欲しいですね。

今まで委員の皆さんがおっしゃったようになかなか勉強にはなりました。地名にドラマありという言葉がありましたが、なるほどと思いました。その説明を聞きますと珍地名を、地形、伝説、信仰と大まかに分かり易くまとめてくれています。宍戸 敦 さんという人はなかなか面白く、分かり易く説明してくれていました。この方、県南の出身のようですが。今後は出ないでしょう？ 出るの？（可能性はあります。）あの方は奥州市の人ですか？（そうです。） 県南の人が県北の久慈の話しをされても、と思いますので、地元県北の人に出演してもらえるといいと思います。めんこいテレビの広い視野で人材を発掘していただきたい。

「興味を引いた、勉強になった。」というご意見が多かったようですが、私もそう思いました。先ほど松館さんは雪景色だけでという事をおっしゃったけれども、僕はかえってリアルタイムでいいなと思いました。僕ら見た時は冬で、冬景色ですから、夏に撮ったものを出されるよりも見ている方は冬でむしろ良かったです。せつくなので、撮り置きを見せられるよりも、リアルタイムで流してくれた方がいいなと思います。出演される人はちょっと寒くて嫌だということもありましようけれども、リアルタイムというのも映像の面白さではないかと思えます。

藤原委員が言ったように私もメモを取ろうと思ったのですが、30分の中で地名がいっぱい出てくるとメモを取り損なうことが結構ありました。30分の番組でたくさん紹介したいという気持ちは分かりますが、もう少しそれぞれの地名をアップするとか工夫が欲しい。メモを取れなかったは私の勝手ですし、ビデオを録る方法もありますが、その日のだけで見終わってしまうと何か「もったいないなあ」と思います。もう少し番組で押したいところをゆっくりしゃべってもらおうとか、そんな工夫、配慮がほしいなあと思いました。

見る人に地名への興味をもってもらおうというこの番組の狙いには、ピッタリ当てはまっていて、次は何だろうと思いつながら私も見えていました。これから委員の皆さんがどのような事を言われるか分かりませんが、みんなの意見を生かしていければ素晴らしい番組ができるのではないかと思います。軽いタッチで面白い30分番組でありました。

○中村委員長

村上委員をお願いします。

○村上委員

盛岡や都市部ですと、旧町名というものが今でも非常に興味を持たれていますし、歴史などをご存知の方は知りたい内容だと思います。私は盛岡で生まれ育ちましたが、水沢でも何処でも自分の住んでいる所、生まれた所の地名というのは非常に興味のあるものだとこのことを改めて感じました。これが全県に広がると、地形だったり歴史だったり、はたまた信仰だったり物語だったり、本当にベースにあるものが非常に大きくて広がりがあるものだという事を、地名というキーワードを通して、本当にストレートに感じる事ができて良かったと思います。

特に、雪景色一色の景色だったのですが、普通だったら雪景色、どこを見ても同じとしか見えないはずが、その謂われですとか、歴史を世梨亜さんと宍戸博士のお話を聞きながら見る事で、この雪の大地にも歴史があるのだという事を、むしろ際立って感じる事ができた気がします。ただの雪景色ではなく、ここに埋もれているものというメッセージを逆に感じた気がします。

うちのフリーペーパーでもよく地図を使います。いろんな地名を見るとここは何と読むのか、何かしらありそうだとか、そういうイメージをかき立てられるものが地図です。地図を見る事が好きな方はけっこういらっしゃいます。そういう方々の関心も十分満たす事ができ

たと思います。

良かったのはバス停です。バス停で「歌読」(うたよみ)という地名がポンと映ったのですが、確かに田舎の道を走っていますとバス停があって、興味をそそられます。地名なのか、集落の名前なのか分からないのですが、そういう名前があると嬉しくなってきます。そのバス停を一個ずつ辿って行くのも、とても面白いのではないかと思います。そんな広がりを感じる30分だった気がします。

「大歩」(おあご)の「スパおあご」は昔行った事があります。確かに地名の謂われを聞いて「そうだな」とその時思ったのですが、忘れてしまいました。今回は映像と実際の世梨亜さんと宍戸博士の掛け合いもなかなか良く、例えば「大股で歩いて難を逃れ、小股で歩いた」という部分が、セリフとアクションで演出されていて、地名の由来が非常に分かり易く、今度は忘れないという気がします。小さい子供たちが見ても印象に残るような分かりやすい演出で、大人も勿論楽しませていただけたのかなと思います。恐らくパソコンでも絶対変換できないような読み方ですし、それぞれに謂われがあるのですが、だからこそ番組とかいろいろな捉え方で、そういったものを伝えていく必要があるのではないかと思います。

○中村委員長

東海林委員お願いします。

○東海林委員

地名大好きです。私は盛岡で愛宕町に住んでいたことがあります。住むとどうしてここはこんな名前だろうといつも調べます。愛宕町はちょうど盛岡グランドホテルがある辺りです。当時、自分で調べたのか誰かに聞いたのか忘れましたが、身分の高い人のお墓のある辺りで、やっぱり斎藤純委員のおっしゃるように、小高い所という地形になっていると、本当かどうか分かりませんが、そのように聞いた記憶があります。

引越しをしたり、違う土地で仕事をしたりすると、やはり何て読むのだろうとか、どうしてこんな風な由来が付いたのか、私は非常に興味を持ちます。そういう意味でこうした企画は「山・海・漬」として面白いと思います。地元の人には慣れっこになって気が付かないけれども、外部から来ている人たちが「何て読むの」とか「何でこんな名前なの」と、興味をもった地名というのは、なにか関心を惹くものがあるのではないかと思います。

ちなみに四国の観光地で「大歩危」(おおぼけ)「小歩危」(こぼけ)の話が出ていました

が、観光地で面白い地名なのでそこに旅行に行ってみたいというような形になることも非常に多いです。国内旅行の国家試験の旅行主任者の検定試験がありますけど、それにも必ずいろんな土地の読み仮名が検定試験の中に出ます。ちなみに「雫石」は読めると思いますが、岩手県でよく難読漢字として出題されるのが、鶯宿温泉の「鶯宿」と夏油温泉の「夏油」です。他では九州の指宿なんかもそうです。そういう所は地名を興味深く読めると思います。

ぜひ、県南篇と言わず、いろいろな形で取り組んでいただければ、非常に興味深い番組の企画になると思いました。

たくさん珍しい地名がある中で、これらの地名を取り上げた理由は何かと思ったのですが、先ほど松館さんがおっしゃったように、裏話が面白くないと番組にならない。単なる検定試験で読めるとか、読めないとかという問題ではありません。たくさん読めない漢字の地名が岩手県にはあるのしょうけれど、確かに裏話、逸話がないと番組にするには難しいので、大変なご苦労があると改めて感じました。

歴史の逸話が紹介される時にいつも思うことですが、お姫さまとか武将を紹介する時に、顔つてすごく気になります。まさかゲームの「戦国無双」のようになる訳にはいきません。今回、いい形の黒いシルエットだったので、これは上手いなと思いました。そういうイラストだったり、私たちにわかりやすくさせていただけるようなテロップだとか、そのような物を含めて、今回は非常に面白く、興味深く見ることができました。

○中村委員長

三浦委員お願いします。

○三浦副委員長

非常に面白く見ました。本当にリズム感があって、展開が良くて飽きずに面白く見る事ができました。教養番組だと思いますが大変楽しく面白く見ました。

奥州市を取り上げたわけですが、岩手県も水沢とか江刺とか、胆沢、衣川といった非常に由緒ある地名が、いつの間にか奥州市という大変新しい地名になって、まだ正直じっくり来ていない中で、古い地名を取り上げていただいたのは良かったと思います。また、八幡平市と言われてもどこを指すのか、未だにじっくりこない所があります。地名には長い長い歴史があるのでそこに着目していただけると良かったと思います。

先ほど、愛宕神社の話しが斎藤委員からありましたが、仙台の愛宕神社も高い所にあります

す。そういう問題意識はすごいと思います。なぜなのか？神社は割りと低い所にもありますので、愛宕神社が高い所にあるというのはなぜだろうか。京都に由来するとすればやっぱり京都にあるので、うんと高い所がないと駄目なのか分かりませんが、ぜひ教えていただきたいと思いました。

盛岡もそうですが、旧地名をどこまで知っているかで、だいたいのその人の地元度合いとか、年代とかの一種の測定法になります。旧地名をどこまで生かすのかという事が非常に大事です。いろいろな思いを広げる、いいきっかけになったと思います。

食べ物とかいろいろなものが地域によって言い方が違う場合があります。今回の番組では「愛宕」(おだき)という読み方があるのだと知りました。地名に限らずいろいろな読み方や言い方が違う場合がありますので、是非、また違った視点でこういった番組で取り上げていただけると楽しいだろうなと思います。今後の続編を楽しみにしています。

○中村委員長

三浦副委員長、ありがとうございました。

私はちょっと辛口です。ひとつは地図がなかったのが、岩手県のどの辺りという事がもう少し欲しかったことです。番組を見て最初に引っかけたのは、めんこいテレビのある所の地名が松幅で、幅は崖とか急斜面とか段差がある所という説明でした。その地形はどこにあるの？番組の中に何も出てこない。松幅の幅という地名の由来はありましたが、あの付近にそういうのがあるというのが何もなくて、パッと場面展開してしまった。そこから最後までずっと引っかけがあって、何かいろんな地名が出て来るけれど、もうひとつまとまった話しになっていないという感じがしました。「西風」(ならい)というのも、意味は何となく分かったけど、「西風」と書いてなんで「ならい」なのか？説明はありましたか？そこを掴みかねました。西からの風ということと、どのような関係があるかという、何もないでしょう。広辞苑を見ると「ならい」というのがあります。それは冬に陸や山に沿って吹く強い風という意味です。ひらがなで「ならい」とあります。良く見ると下の方に「西風」とあります。たぶん地名によってはいつもそういう風が西から吹くから「ならい」なのか。「ならい」を西風と書いたという気もしています。勉強不足なので、私も定かではありませんが、その辺ももう少し突っ込んで説明してもらえると、「ああなるほど」という話しになって、自然に入ってくると思います。今回、「西風」(ならい)は地名として出ていますが、そういった所が番組の所々にあって、気になりました。私も地理が好きだし、地名についての説明を聞くのが大

変好きですが、黙って見ていると楽しいけれど、全体的に少し物足りないなと感じました。

次回、番組を作る時には、たくさん次々に紹介するのではなく、もう少しポイントになるところは「なるほど」と視聴者に思わせるような説明をしていただけると有難い。こういう地形から来る由来については少し物足りなかったのですが、歴史的なものについては「なるほど」という面白い所がたくさんありました。

番組では、何通りかに分けて地名のお話をしていましたが、全体としてまとまりがないという印象がありました。ただ地名を紹介するだけで、ひとつひとつがもう少しじっくり来ない。「なるほど」と思わせてくれない所があって、私自身は物足りなかった。なんで最後に「すいとん」が出てきたのか？何の意味があるのかと思いました。私の体調が悪かったせいか批判的に見てしまいました。世梨亜さんと宍戸先生のからみも、ある意味では面白い所もあったんですけど、何か途中はドタバタ的な安っぽいコントみたいな感じもあって、作る時にもうひと工夫、ふた工夫あっても良かったという感じがしました。

私だけが少し辛口の批評で誠に申し訳ありませんが、せっかく面白い題材ですので、そういう所を工夫していただければ有難いと思いました。

先ほどの愛宕神社が高台にあるというのは、私も言われて見るとそうだなと思いますので、ぜひどこかで取り上げて下さい。私も仙台の自宅の近くに愛宕神社があり、元朝参りをしますが、そこも高い所にあります。仙台のいわゆる正統派の愛宕神社とは違う所がありますが、それも高い所にあるのでそれなりの理由があるのかなと思います。

委員の皆様他に何かありますか。

三浦委員、どうぞ。

○三浦委員

冒頭のシーンが雪景色で、津軽の地吹雪のようなイメージで暗かったのですが、音楽で非常に救われました。そこに若い女性も出てきて。音楽というのは大きいですね、良かったと思います。

○中村委員長

はい、中原委員は何か付け加えていただくことはありませんか？

○中原委員

地名にはいろんな説があるけれど、「嘘ではないか」というような反論は来ないですか？安倍貞任と源義家の話がありました。その他にも番組ではいろいろと伝説、珍名を説明なされたけど、その近所の人たちで「そんな事はない、こういう説もあるよ。」というようなアクションは来ないですか？（特にごさいません）そうですか。歴史ものには、けっこう紛い物が多いというケースもあるので（笑）その辺りがちょっと心配になりました。もし、この番組の後始末が必要ということであれば、こういう説もあるよ、そういう説もあるよということで、何かの時に紹介してもらえれば親切ではないかと思います。

歴史について、本に書いてあるからと信用してしまう悪い癖が誰しもあります。番組作りにおいて、そうではない見方もあるという慎重になる部分も兼ね備えて欲しいと思いました。

結果的に面白さという点では、見る方からすると楽しい番組であったということでもあります。

○中村委員長

ありがとうございます。

委員の皆様、他にはございますか？ないようですので、続いて欠席委員の方からのレポートを事務局からお願いします。

○事務局

吉田委員のレポートです。

非常に面白く拝見させていただきました。

地名については、今まで何の疑問もなく何気なく見過ごしておりましたが、この番組を通して地名の由来について大変興味を持つようになりました。

元来、地名はその地域に昔から言い伝えられていることが多く、それ相応の意味合いをもち合わせているものの、「文字」から想像を膨らませてみる事も楽しみのひとつだということを見ました。

地名の博士である宍戸さんの解説も良かったのですが、そこに住んでいる人達からの生の声が、素朴で地方特有の味が出ていたように思います。できれば、地名に関連した風景とか、何か姿、かたちが見えるようにしたらいいなと思います。

この種の番組は正に発見がポイントです。

それにしても私にとっては、食材の発見「ダム御膳」は是非食べてみたい一番の収穫でし

た。

岩手の中でまだまだ知られていない所が、たくさんあると思われますので、後世に語り継がれる意味でも、今後ともわかりやすく楽しめるような番組を作っていただきたいと思います。期待しています。

○久慈委員のレポートです。

今日は記念の第200回番組審議委員会に出席できなくて、大変申し訳ございませんでした。

「山・海・漬 いわての珍地名 FILE わが町再認識 県南編」を拝見しました。地名をキーワードにその地域を知る、というのは、なかなか面白い切り口だと感じました。

おそらく地元に住んでいる方々も、その由来などをあらためて聞くと「へえー」と思うのでしょね。また、その地名の由来を紹介する際に、テロップを使っていましたが、それがわかりやすくてよかったです。あのような補足説明はとても大事な気がします。

私の住んでいる二戸市にも色々な地名があります。

「県南編」と書いてあるので、ぜひ岩手県内様々な地名をキーワードに新たなまちの魅力を発信してください。

○中村委員長

それでは、以上で本日の議事はこれで終了とさせていただきます。

ありがとうございました。

○事務局

中村委員長、ありがとうございました。

今回の審議会の模様は3月19日（土）朝4時42分から「めんこいテレビ番組審議レポート」として放送いたします。

次回は4月12日の12時よりホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING での開催となりますので、よろしくお願い致します。

それではこれで番組審議会を閉会とさせていただきます。

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

8. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

* 平成23年3月9日（水） 産経新聞 東北版

岩手めんこいテレビ
岩手めんこいテレビの第
200回番組審議会（中村
慶久委員長）が8日開か
れ、情報番組「山・海・
漬」を審議した。今回は
「いわて珍地名FILE
わが町再認識」と題して県
南の珍しい地名を取り上
げ、2月5日に30分枠で放

送された。
委員からは「地名には歴
史があることを再認識でき
た」「ぜひシリーズ化して
ほしい」などと評価する半
面、「地図を出してほしか
った」「全体としてまとま
りがなかった」との指摘も
あった。

* 平成23年3月19日（土）午前4時42分から4時45分まで「めんこいテレビ番
審りポート」内で放送

* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

9. その他の参考事項

特になし